

# おてら

# 報 恩 講

## 十一月十六日(水)

午前十一時より

正午 おとき・法話

おときも椅子席になってます



浄光寺蔵 親鸞聖人越後御化導木像

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会  
写経会  
毎月第二・四金曜日  
午後一時より

浄土真宗のご開祖親鸞聖人の御祥月命日に  
「ご宗祖のご苦勞を偲び感謝し、そのみ教え  
を味あわせていただき、明日の私の生きる  
糧とさせていただきます。法要です。」

ぜひ一度、ご参加ください。

## 仏 縁

住職 蒲原 靈 英

俳句の師が百寿を前に亡くされました。亡くなられる十日前の句会にもいつものように出席され、まさに大往生の最期でした。

その方は、私が以前住んでいた彦根のお寺の熱心なご門徒で、「わたしは亡き前住職に人間にさせてもらうた」と常々言っておられました。

その方は若い頃に右手を無くされました。まだ戦後間もない頃で、今のように福祉などない時代。片手の無くなった自分がどうやって生き、どうやって家族を養っていきけるのか。「何で自分が」と、酒に溺れて現実から逃げ自暴自棄に。自分でもこのままではアカンと思ってお

っても、なかなか…。そんな時、前住職に「寺にお茶でも飲みに来んか」と声をかけられ、それから色々な法話を聞くようになりました。

法話を聞かせて頂くうちに、苦しんでおるのは自分ばかりではない、皆自分の思い通りにならないで苦しんでいることに気付かされま

す。いくら苦しんでもいくら願っても手が生えてくるわけではない、まずは片手が無くなったという現実を受け入れることができるように

なります。そして、片手が無くても、命があれば自分でできることは山ほどあるではないか、自分にしかできないこともあるのではないかと、

苦しみから解放され、前を向いて歩むようになりました。生涯、前住職を師と仰ぎ、聴聞を重ね、まさに仏道を歩まれたご一生でした。

片手を無くすというご縁があればこそ、師に遇えた。仏法に遇えた。仏縁を得て、初めて人間らしい生活を送らせて頂くことができた。こ

れが、「わたしは前住職に人間にさせてもらうた」という言葉の真意です。では、「人間らしい生活」とは何か。何事もあるがままに受け止め、

わが身を省みて感謝することです。これらのことは、他の動物にはできません。これが、南無阿弥陀仏のお念仏と共に歩む人生です。簡単

なようですが、まずあるがままに受け止めることすら、非常に難しく大変なことだと思いませんか。だからこそ、親鸞聖人は、その時だけ

滝に打たれたり座禅を組んだりするのはなく、お念仏を申して一時一時、一日一日を大切に生きてゆく道を勧められました。

俳句の師は、俳句だけでなく、仏道を歩む者の姿を教えとして遺して下さいました。

手を無くし 仏縁を得し 露の人

合掌

